

港湾の脱炭素化に向けて 直立護岸を活用したブルーカーボン創出プロジェクトを開始

横浜ベイサイドマリーナ株式会社（神奈川県横浜市、代表取締役社長：天下谷 秀文）、東亜建設工業株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：早川 毅）、八千代エンジニアリング株式会社（本店：東京都台東区、代表取締役社長執行役員：高橋 努）は、横浜港の港湾管理者である横浜市港湾局と連携し、港湾の脱炭素化に向け、直立護岸を活用した CO₂ 吸収源「ブルーカーボン」となる海藻（ワカメ）を繁茂させるブルーカーボン創出プロジェクトを開始します。



八千代エンジニアリング

本プロジェクトは、横浜ベイサイドマリーナ（横浜市金沢区）をフィールドに行います。本プロジェクトにより、横浜港の脱炭素に向けたブルーカーボン生態系の創出を図るとともに、地域の皆さまに体験いただく環境教育などを実施し、地域とともにこの活動を進めてまいります。弊社は、この取り組みを全国に発信し、沿岸域の環境改善の取り組みから、地域の活性化につなげてまいります。

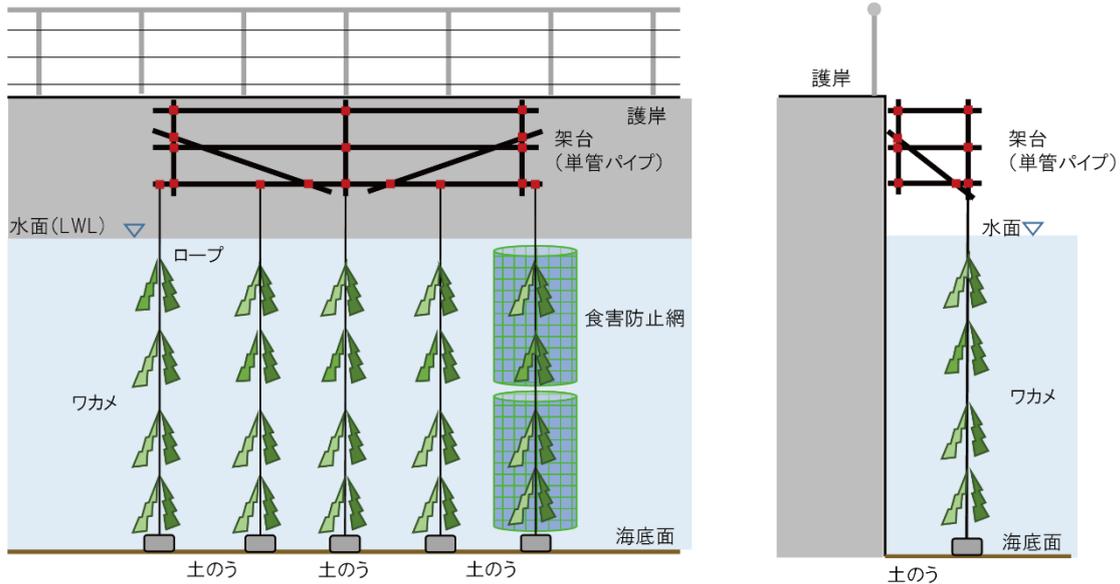


■プロジェクト概要

1、実施概要

護岸壁面上にワカメの種糸を巻き付けたロープを取り付け、胞子の着生を促します。2025年春ごろのワカメ最盛期に、一部のワカメを採取し、株数・湿重量を測定し、ブルーカーボン量を算定します。その後、ワカメの胞子が飛散して背後の護岸に付着して、ワカメが生長するか確認します。

また2025年春以降から、ワカメの種付け体験や収穫・食育などを地域の皆さまに体験いただく環境教育を実施していく予定です。



2、実施箇所

横浜ベイサイドマリーナ地区内の護岸3箇所で行います。



3、実施期間

2025年3月～2026年5月

■本件に関するお問い合わせ先

横浜ベイサイドマリーナ株式会社
総務部企画総務課 畠山
t-hatakeyama@ybmarina.com

■プロジェクト参画会社概要

東亜建設工業株式会社

1908年（明治41年）の創業以来、鶴見・川崎臨海工業地帯の造成に始まり、得意とする海洋土木を中心に、社会資本整備に携わる総合建設会社として、時代のニーズにあわせて領域の拡大を続けています。『高い技術をもって社業の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす』という企業理念（社是）に則り、『社会を支え、人と世界をつなぎ、未来を創る』という長期ビジョン〈TOA2030〉のもと、創業者・浅野総一郎が残した言葉「社会を益する」という志を体現すべく、さらなる成長を続けてまいります。

所在地：東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー

代表者：代表取締役社長 早川 毅（はやかわ たけし）

資本金：18,976,658,924 円

設立：1920年1月23日

URL : <https://www.toa-const.co.jp/>

八千代エンジニアリング株式会社

国内トップクラスの総合建設コンサルタントとして、国土交通省を始め官公庁から公共事業を受託し、社会インフラや環境保全に関する技術コンサルティングサービスを、設立より60年以上にわたって提供しています。近年は、これまで培った技術ノウハウを民間企業へも提供しビジネスの領域を広げています。

所在地：東京都台東区浅草橋 5-20-8 CSタワー

代表者：代表取締役社長執行役員 高橋 努(たかはし つとむ)

資本金：4億5千万円

設立 : 1963年1月29日

URL : <https://www.yachiyo-eng.co.jp/>